



Alma Mater SAPIENTIA

Vol.17
Mar.18.2002

発行：英知大学同窓会
〒661-8530
兵庫県尼崎市若王寺2-18-1
発行責任者：野村 裕
編集：英知大学同窓会

- 大学の改革を求め・・・1
- 卒業生に贈ることば・・・4
- これからの英知大学・・・7
- 卒業生の皆さまへ・・・2
- 連続で公開討論会・・・4
- 学内企業研究会・・・7
- 同窓会の皆様へ・・・2
- 同窓会事務局より・・・5
- これからの英知に期待する事・・・8
- 卒業記念品・・・2
- ホームカミングデーに出席して・・・5
- TOEICスコアアップ講座・・・8
- The Child father of the Man・・・3
- これからの英知大学・・・6
- 編集後記・・・8

『大学の改革を求め』

会長 野村裕



早春の候、ここにてめでたくご卒業を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。また、永年のご苦勞を感謝し保護者の方々にも心よりお祝、申し上げます。

卒業生の方々には、同窓会への正会員としての入会を力強く思い心より歓迎の意を表します。

さて今日より厳しい社会に出ていかれるわけですが、世界情勢的には多発テロの影響が残存し日本社会ではデフレスバイラル、構造改革等による経済不安定及び現状の変革を強く問われ、中国経済の台頭による国内(日本)空洞化が現実的になり、最も強かった銀行の組織をも揺るがす流れになって来ております。

教育界の改革も公立高校に民間出資者を登用し、学校変革へ積極的に取り組む各地で学校を良くしたいという意欲・気運が高まっております。大学もしかり、少子化及び大学が選択される時代になり各大学で変革の動きが激しくなっております。

ります。その中で「学校改革は、トップダウンで実施するもの。校長(学長)で学校が変わると思うのはリリーダシップというものを履き違えている。学校を変えるのは、校長(学長)ではなく、現場の第一線に立つ教職員である。校長(学長)は、現場がうまく機能するように手助けをするのが仕事で、校長(学長)が張り切っても、教職員にやる気がなければ改革は進まない。これは、企業人としての経験があるからいえることかもしれない。」「学校の運営も企業の経営も同じ」というベースはあると思います。「企業を変える主役は現場で働く一線の社員であつて、社長ではない。社員のボトムアップで出て来た改革の提言を社長の方針に合わせて実現させるのが指導者の役割である。」「現場の先生は教育者(研究者)としてプライド、そして経験がある。それを無視して学校を変えることは不可能である。何回も現場と話し込みを重ね、本音が出てきて初めて改革への着手ができるものです。」「少子化や他大学との競争を考えると、志望者の開拓に受け身の体制ではまずいという危機意識が現場の教職員に芽生えその力を改革へのパワーへと結び付けることが必要と考えます。」「生徒(学生)は顧客である」という信念が必要ではないでしょうか。企業の繁栄に顧客の支持が欠かせないように、学校も生徒(学生)の満足度を高め

る努力なくしては成り立たない。生徒(学生)の求める満足度は多様です。」「大学は、人間形成、研究、就職と将来の進路を求める最終学府であります。学生が押し付けでなく、自分の意志で進路を決め、実現に向かつて努力できる手助けを最大限することが学校の使命であり、学校の満足度を高める要素になるものと思ひます。

現代の大学生は、自分の意志で決めることが出来ない人間が多いと聞きます。その上でも、先生が一方的に話をして、学生は聞き役になるのではなく、自分が何をやりたいか学生の側が分かっている場合を理解し、自分がどういう人間か、進路や意志の決定を自分でさせるよう助言や手助けをすることにより、主役は学生で教職員は引立て役に徹することが、悲しいかな現代の大学に問われていることではないでしょうか。

学校も他の組織運営も同じですが、教職員と学生という現場の主役がやる気になる仕組み作りが成功の力ギではないでしょうか。

新学期(四月)からは、大学の経営スタッフ(常務理事及び学長)も替わられ、「新たな英知の創造」への挑戦とお聞きしております。同窓会も、変革には全面的に協力は惜しまず、共に発展する様努力を積み重ねて参りたいと思っております。会員ご一同の益々のご協力とご支援を賜わりたく切に希望するものです。(参考資料) 日経シリーズ教育 都立高島高校校長 内田睦夫談引用

卒業生の皆さまへ

学長 岸 英 司



今年、博士、修士、学士学位記の授与式に先だつて、ご卒業の皆さんへおよろこびを申し上げます。

殊に英知大学始まつて以来、始めての博士学位記授与をお受けになられるインドの人と日本人の方に心よりおめでとうと申し上げます。またこれまで本学をご卒業になられた大勢の卒業生、同窓会の皆さんにも創立以来三十九年間の母校の発展に誇りをもつて頂きたいと思ひます。

現在はご卒業される皆さんには不景気という経済状況の中で、就職は極めて困難になつています。また少子化の現象の中で大学への入学者が減少しつつあります。入り口も出口も困難な中で、英知大学は在校生、教職員、後援会、同窓会が力を合わせて、大学の発展のために努力いたしました。私は三月末で学長職を退任いたしますが、四月からの新学長山田利秋先生のご指導の下、大学がさらなる発展を遂げられますよう祈念し、私のごあいさつといたします。

同窓会の皆様へ

常務理事 村田 稔

二〇〇一年十月から新しく常務理事に就任いたしました。

この場をお借りして、皆様へのご挨拶と、今まで母校によせてくださったご厚意に感謝いたします。

あまりにも荷の重すぎる職務ですが、理事長の大学改革への熱意に押し切られ、受けることになりました。

現在ご承知のように、全ての大学が、少子化と不況の荒波に押しつぶされ、その存続が危険視されています。本学もご多分に漏れず、押し寄せる波風の強さを感じる昨今です。並みの努力では、押し流され、抹消されそうな勢いです。今こそ創立の理念をしつかりと見つめなおし、その意味するところを汲み取り、今の時代に最も適した方向性を見出す必要があると思ひます。

大学は教職員と学生の運命共同体であり、同窓会と地域社会に支えられ、また貢献できる存在でなければならぬと感じます。教職員間には信頼と協力体制が必要でしょうし、そのためには公平・公正な取り扱い、自由な働きの出来る環境づくりも必要でしょう。学生間にも同じ事がいえると思ひます。要はひと

り一人が個人として、人間として尊重され、いろいろの違いがより豊かなものを創り出す原動力だという環境づくりが求められます。同窓会との繋がりを特に大切にしたいと考えています。

教職員と学生との繋がりが、大学と同窓会との繋がりであるからです。大学と同窓会との繋がりや度合いこそが、教職員と学生との繋がりのバロメーターだからです。ややもすれば大学は社会の荒波から隔離された聖域だと考えられがちです。そのために社会のまつただ中で活躍なさつて居る皆様方からのご意見やご示唆が必要であり、それを受けて大学改革の歩みを確実のものとしたいと考えています。

地域社会との連携、協力も欠かすことの出来ない大切なことでしょう。地域にあつて、地域に根ざし、地域に愛され、地域と共なる大学でありたいです。英知を創り、英知を育て、英知を支え、英知で学び、英知を愛する皆様方と、「英知と力」をあわせ、二十一世紀の社会に貢献できる英知大学を目指したいと思います。

最後になりましたが、英知大学同窓会のさらなる発展を、祈願いたしております。

卒業記念品

神学科学科長 松本 信愛

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます……

とは言われても、卒業の時の『おめでたさ』の実感は人によつていろいろでしょう。

学生時代、一生懸命勉強して、満足のいく形で卒業する学生は「自分をほめてやりたい」という満足感で卒業していくのでしょうか。

また、ただ何となく大学に来て、無難に単位を取つて卒業していく学生にとつては、「やつと終わつたか」という気持ちでしょう。そして、ひよつとすれば、もつとも感激して卒業していくのは、最終学年になつても多くの単位を残して、最後の最後まで卒業できるかどうか分からない状態で、やつと卒業に漕ぎ着けた学生達かも知れません。

いずれにしても、一つのことを成し遂げた充足感はあるでしょうが、人生では、ここから先が勝負であることも事実です。その意味では、これから先の人生に役立つ知識や人間関係をどれだけ持つて卒業するかが非常に大切なことです。

送りだす側から言えば、どれだけそのようなものを与えることができたかという反省になります。

ます。

高校卒業生の数が減り、入学者の確保が難しくなつてきている今だからこそ、以前にも増してその点を考え、実行に移さなければならぬことは明らかです。

教員側から、その努力は惜しまないつもりですが、どうしても年齢や立場の違いから、的が合わないことがあります。

そのようなときに、卒業生が、経験者の立場から言つて下さる「アドバイス」は、的を射つて貴重なものです。そのような「卒業記念品」をぜひ置いて行って下さい。

卒業式に置いていけなかつた方は、卒業後、そのような「おみやげ」を持つて母校を訪ねて下さい。



The Child is father of the Man.

My heart leaps up when I behold
A rainbow in the sky:
So was it when my life began,
So is it now I am a man,
So be it when I shall grow old or let me die!
The Child is father of the man:
and I could wish my days to be
Bound each to each by natural piety.
William Wordsworth (1770-1850)

英語英文学科 学科長 井田 規文

英語英文学科に籍を置かれた諸君であれば、読んだり耳にしたことがあるだろう。イギリスの桂冠詩人ウィリアム・ワーズワスの有名な詩の一つである。彼の妹ドロシーが呼んだ所から「The Rainbow」という名がついたと言われている。この中の一節「The Child is father of the Man」をこの春「英知の園」を卒業される皆さんへの「贈る言葉」にした。 「子供は大人の父である」と訳されるが、私は時折この一節が自分にとっても厳しく響き、また苦しく感じる事がある。ですから、晴れの門出を祝う饒の言葉としてはあまり相応しくないかもしれない。しかし、これからは社会人となられる訳だから社会人としての立場でまた同じ人間同士としての立場でこの一

節を受け取ってもらえらると思う。この詩は、子供の頃に虹を見て感動した自分が、今もそして今後も感動し続ける自分でありたいと願う人間としての自分と大自然とのあり方として、神への畏敬の念を示そうとするものである。その根底を流れる考えが、澤村寅二郎氏の解釈を借りると、「幼児の心から成人の思想感情は生み出される、幼児は要するに大人の父」であり、それはまた後にワーズワスの「immortality of the motto」となるものである。私はまだ人間が出来ていないからだろうけれど、人間性の人間の真実あるいは人間性そのもの、人間の持つ「universality」(普遍性)と理解したい。それゆえに強く感じる事は、自分に対する不安を覚えてしまう事である。「The Child is father of the Man」の中に人間性の不変性、非成長性ひいては性悪説的な考えを連想させるいくつかの諺として見てしまうからだろう。つまり、「囁む馬は終いまで囁む」。「A snapping horse will bite till his dying day」。「狐は白髪を生える歳になっても、決して改心しない」。「The Fox may grow grey but never good」。「豹の斑点は変える事が出来ない」。「You can't change the leopard's spots」と

いった諺が連なつて思い浮かんでくるのである。しかし、日本語訳として「三つ子の魂百まで」を考えると、そこには肯定的に解釈する余地は残されているから実は私も救われる気持ちになれる。「What youth is used to age remembers」すなわち、「若い頃のはことは、歳を取つても良く覚えておるものだ。」をこれからの自分を作り上げていく過程に役立てるように考える賢明さをもとも人間には備わっていると思う。実際、「昔取つた杵柄」「Trouble brings experience and experience brings wisdom」という諺があるのはその証拠と言えらるだろう。この考え方は年齢を重ねるにつれて私にも分かつてきた。今生きている事はた単に今だけの事ではなく十年前の自分、いや二十年前、三十年前の延長線上にあるのであつて、そしてまたこの線上には今後十年先、二十年先そしてこの世を去る時まで自分があるのである。

大江健三郎氏が先頃朝日新聞のインタビューに、「小さい時は、文化人類学のイニシエーション(通過儀礼)のように、ある扉を開ければ大人になると信じていた。しかし、そんな扉はなかった。僕達の切れ目のない生活、一つ

の文化の中で生きて死んでいく生活には、イニシエーションがない。子どもを持ち続けて成長し、死ぬのだと分かつたのです。子どもに知つていた事は今も知り、感じていた事は今も感じている。子どもの中にすべてはあり、最後までそれから逃れられない。」

(二〇〇二年一月五日付朝刊)と述べられているのに、まるで大江氏がワーズワスの「The Child is father of the Man」を意識されていたかのようで、共通の感覚を覚えて興味深い。自分の中の「子ども」は、自分が歳をとつても決して失われる事はないだろう。けれどもそれは変容する事も経験で分るからなおさらなのだが、時として、特に今の自分を省みた時に今後の自分を案じてしまう事がある。自分は、はたして今の自分を続けて将来の、今よりもはるかに成長した自分になれるのか、という問いが付きまとう。それでも今の自分の中に「子ども」を認め、将来の自分にその同じ「子ども」を見る時、ワーズワスのような「natural piety」が自分に備わつていればどれほど素晴らしい事だろうとも思う。

諸君がこの英知大学で学んだ事、経験した事が今後の人生の中でどれほどの位置を占めるの

か今は分らない。しかし大学を離れても英知大学での学生生活は必ず諸君の心の中に残る筈である。なぜならそれは諸君ひとり一人の「子ども」だからである。願わくばその「子ども」が諸君の心の中で常に変わらぬ「子ども」であつて欲しい。

と、同時に英知大学で学んだことに限らず、経験した事全てが君たちの将来に役立って「子ども」であつてほしいと願つてやまない。

「卒業」は制度から生まれた言葉であつて人間の生の過程にあつては決して「終わり」だけを意味するものではなく、「始まり」をも意味する。それよりむしろ大事なのは、自分の中にいかに「子ども」を持ち続けるかということだと思ふ。「卒業」したことでそれまでのものが全て無くなるとは思わないが、今こうしてこの拙文を読み終えた時に、少し英知大学で学んだ事経験した事を振り返つてみて欲しい。今の自分の存在を確認すると言つと大袈裟だが、もしなにか確認できるものがあれば、それこそが君にとつての将来に繋がるものだと言えらる。

The past is the present, and the present is the future.
君たちの将来に「子ども」あれ!

卒業生に贈ることば

スペイン語スペイン文学科学科長

マリア ルイサ ロペス

卒業生の皆様、おめでとうございませう。

いよいよすべての教育課程を修了して、社会人の一般生活に入りますね。

この時こそ、英知大学で学んだ事が大切になります。生きていく社会の中で君たちを通じてどのように英知の光を反射されるか、これからの君たちの課題です。

大学を出て、大きな困難に出会うこともあるかも知れませんが、在学期間に蓄えた精神的な価値観と希望を支えと心のよりどころとして、勇気をもって明るく生きられるようになったら幸いです。

私たち人間すべての存在は大切で意味があるし、自分でしか出来ないことがあると思います。英知大学の卒業生のひとり一人は自分の個性を生かしながら、誰もが幸せと感じられる社会と世界を作り上げるために役立つ人であるように願って君たちへの贈る言葉にします。

フランス語フランス文学科学科長

川久保 輝興

ご卒業おめでとう。

だが、卒業できたからといって手放して喜んでいられない世の中の状況であることは、君たちも十分承知のことと思う。

ただでさえ悩み多い青春を、さらに苦勞を重ねて生きていかなければならない人も沢山いるのではなからうか。

大学で習った、あるいはみずから培った知識や能力が直接にはまるで役立たず、ということのほうが実際には多いと思う。

ましてフランス語ということになると、今の日本でどこで役立つか。希有な僥倖をまつばかりであろう。

しかしそういう事情は大なり小なりあらゆる分野で言えることであって、本当に世の中と自分に役立つ事は自分で、自分の知恵と力で作り出していくものだと思う。

大学教育はその地ならしであったはずだ。今まで十分あったゆとりの時間(もうこれからはそれを求めるのはほとんど不可能であろう)をどのように使っ

てきたか、どのように生きてきたかが、その地ならしで働きこまれた養分のはずである。

君たちの未来はここから始まるのだ。養分を取り忘れた人はこれから取り戻すのだ。人生は常に再生(ルネッサンス)が可能である。フランス映画に「今日から始まる」という、今日の逼迫した難問と明日への希望を実に見事に描いた感動的な作品がある(機会があったら、ぜひ観ることを勧めます)。



神学科助教授

小田 武彦

昨年九月十一日の同時多発テロ事件をきっかけに、公開討論会が二度行われ、述べ五百人を越える市民が本校で活発な議論を繰り広げてきている。

「今回のテロ事件をどう考えたらよいのか。世界平和を願って自分たちの『英知』を磨くにはどうすればよいのか」(英知祭展

示 W P P ピラ)と模索する学生の思いを受け止めた本学は、英知祭実行委員会との共催で「米同時多発テロ問題の核心を探る・憎悪の連鎖を断ち、真の平和を」をテーマとする公開討論会を昨年十一月三日(土)に開催した。

パネリストの松本耿郎教授(国際化学科長)は、自爆テロの原因として、パレスチナ情勢の悪化による絶望感や家父長的社会の男性同盟の価値観と日本の神風特攻への賞賛などを示唆。和田幹男教授(副学長・宗教文化専攻主任)は、エルサレム陥落によるユダヤ民族の国家喪失から P L O との交渉決裂に至る歴史をたどり、事件の背景にパレスチナ人の国家創設の悲願と幻滅がある事を指摘。

松浦悟郎司教(日本カトリック正義と平和協議会会長)は、単純化した二者択一の危険性を指摘した上で、市民が担う平和運動や紛争地域での平和ゾーン設置、国際協力部隊派遣、そして日本への難民受け入れなど、平和な世界を作り出すための様々な可能性を説いた。

「足もとからの『難民』救援・難民認定制度への問いかけと私たちの課題」をテーマとする第二回目の公開討論会は、今年一月

十二日(土)、カトリック大阪大司教区国際協力委員会との共催で開催された。

この公開討論会も、学生たちが自らが世界情勢どころか日本の現状さえ知らずとしてこなかったことを反省して自分たちの足もとを見つめる研修が続いていることに触発されて企画された。村田稔講師(常務理事)は、生命の危険や恐怖から逃れてきた人たちが日本にいるにも関わらず難民として受け止められていない実体を紹介。

武村二三夫弁護士(大阪弁護士会)は、人権擁護ではなく管理のために定められている日本の「出入国管理及び難民認定法」の問題点を具体的に提示。

新垣修助教授(志學館大学法学部)は、日本の難民対策の不備を補う市民主導型の国際協力があり得ることを海外の実例を挙げて紹介。

約二百人が集まった会場には、難民申請をしているアフガニスタン人が五人も参加。難民申請が認められず退去命令を受けているワヒド・マンズールさんが代表して、少数民族の一人としてどのような迫害を受けてきたかを紹介し、すべての人に人権が保障されなければ本当の安全はないと訴えた。

第一回公開討論会の全記録は、「武器なき世界の実現を」報復ではなく、いのちの連鎖を(一、一〇〇円)というタイトルで、女子パウロ会より三月三十一日に発行されます。ぜひご一読ください。

また、これからも、一般市民を対象とした公開討論会が続けられる予定です。

次回は三月九日午後一時より、「パキスタン視察報告会・アフガニスタン難民はいま！」

同窓会事務局では、テーマに対するご希望を小田助教授に、お取次ぎいたします。また公開討論会や公開講座等の開催通知をご希望の方には直接、ダイレクタメールでお知らせいたします。

同窓会事務局より



平成13年11月3日開催
同窓会総会への委任状
より会員さんのコメント

● 会報「サピエンチア」を毎月読ませていただいております。懐かしい先輩方のお名前を見つけた時は、とても嬉しいですね。

● 「教職員アンケート」は非常に良い試みだったと思います。回答率の低さは残念でしたが、また、回答者の意見も、当事者意識がないように思います。

● 同窓会の役員の方々、いろいろなアイデアでの「サピエンチア」発行、ありがとうございます。

● 産婦人科で看護婦として働いております。患者さんの中に外国人の方がいらして大学で学んだスペイン語が生かせることがあります。

● 「真の大学発展を願って」を拝見し、わが母校の現実を知り、とても残念です。

同窓会へのご意見、ご希望、或いは辛口のお叱り、その他何なりとお寄せ下さいお待ちしております。

＜お問合せ先＞
英知大学同窓会事務局
藤本・大年田まで
Tel.&Fax.06-6498-6258
e-mail
sapiens@inbox.inet-osaka.or.jp
火・木曜日の10:00AM-5:00PM
それ以外は留守番電話、FAXが受け付けますので、お気軽にお問合せ下さい。

ホームカミングデーに出席して

宗教科卒業 Sr.長谷川桂子 mic 無原罪聖母宣教女会

二年前英知大学同窓会関東支部に出席したことが縁で、なつかしい母校にホームカミングデーのために招待をいただいた時は、本当に夢のようでした。何故なら私たち修道女にとって勤務地以外を訪れる事は殆どないからです。

昭和四十四年に宗教科を卒業して以来三十年以上の歳月が流れたのですからなんと大きなお恵みでしょう。

キャンパス内の構築、たたずまいなどすばらしい発展を語りかけて来ると同時に、タイムスリップして当時の二棟あった校舎やグラウンドでのクラブ活動でサッカーや空手にその青春のエネルギーを発散させた叫び声、夕暮れ迄聞こえていたのが昨日のようでした。その若者達に今、同窓生として再会し立派な社会人として互いに旧交をあたためつつ、数十年の空間をうめる喜びを満喫するには、時間が短すぎました。

会長さんや係りの方達から一年間の報告を聞いて、どんなに同窓会を盛り立てて意義あるものとするか頑張つて来られたか

んで来た道のりが私のアイデンティティとなり、生命となつていることを感謝しています。

同窓生の皆さん、私達ひとり一人この賜を学問と社会・世界の中で蓄積されていることを認識していただけるでしょうか。

英知大学はどんな人間にも豊かな富があることを発見させてくださる精神風土があります。その為に故人となられた創立者の田口大司教様をはじめとして現役・退役の神父様方と諸先生方が今も未来も私達に声援を送っていただけることを忘れず、同窓会の友がきをより一層結びながら、共に考え、語りながら大学側との対話の機会を作つて同窓会の存在を意義あるものと発展させて行きましょう。

一人の力は弱けれど皆が信仰・希望・愛の力を結集したら天地をも動かすほどのこともおこりえましょう。



これからの 英知大学

就職課課長 須澤 晃

現在、英知大学の経営と運営は、開校以来の窮地にあります。昨春より全学挙げて、大学改革に取り組んでいます。

昨年十月、常務理事は村田稔神父に引き継がれ、四月からは学長も山田利秋教授に受け継がれることが決定しています。そのような動向の中で「これからの英知大学」について、少し述べてみたいと思います。

本学が、大学改革を行わなければならぬきっかけは、まず入学試験の結果求むべき学生が充足せず、入学生の資質と能力が低下し、授業や就職などにも問題を投げ掛け、さらには今日までの大学運営全般に渡り、問題点が具現化したことによります。

学生数が減少することは十八年前から明白であり、社会経済の低迷、社会の大学への要求の変化は時期の多少の差異はあるにせよ、充分に予測できたことです。

大学改革は、本学に限られたことでもなく、日本に限られた

ことでもありません。日本高等教育学会の研究発表では「日本の特殊性により大学改革は、欧米に遅れること十五年から二十年のタイムラグをもっている」と言われています。また、大学改革の「世界共通のキーワードは三点に絞られ、資金調達(Financing)資質(Quality)統治能力(Governability)にある」とも示されています。

さまざまな構造改革の中でも、大学改革がもっともその対処にエネルギーと時間がかかる一つであるものと思われれます。P H P 研究所の「二〇一〇年大学改革研究会」の提言によると、「それは、大学の体質が改革推進に不向きな要素を多く抱えており、さらに大学が消滅するような自体を未だかつて経験したことがなかったからである」と述べられています。本学においても、全く同じ問題を抱えているといわざるを得ません。

世界的に高度成長期の典型的象徴である車社会とは、良い車を造ること、良い道があること、そして良い駐車場が完備されていることがその条件でありました。よいキャンパス社会には、良い人材、良い教育、良い施設環境が必要であります。改革は「総論賛成(自分に立ち返れば各論反

対)では成功しません言うまでもなく、改革が実施され一応の成功を収めるためには、全教職員に周知を徹底し、一致団結協力することが必要であります。組織の財産は「人、もの、金、情報」といわれます。その管理を根本から見直し、新しい英知大学の創生を目指し、大学改革を推進することが必至となります。

改革が、規模の問題で困難であれば、小さい規模にすることであり、そのために前提条件を大きく覆し、根本から建て直す勇氣と覚悟が必要です。そして、今日いずれの大学においても、求められている変革は、グローバルゼイションとITの力による革命です。大学は、今は知識の生産と人的流通の市場を創生していると言っても過言ではないからです。

そこで、特に英知大学における大学改革に必要な基本的概念を取り上げるならば、まず第一に「大学は、教育というサービス事業である」ということであります。

顧客である学生および保護者の教育に関する顧客満足度を、いかにして高め充足するか、継続的研究の成果が、いかに社会の評価を得るかが重要であります。

換言すれば、かつての「大学は研究と教育の役割を半分ずつ果たす」との考え方から、かつての研究重視から大きく教育の比重を持つこととなりました。その必要性は、日本の戦後五十余年の結果であることは間違いなく、家庭の教育が不十分であっても、中等教育が不満足であっても、高等教育の現場では、教育というサービス事業を求められているのが現実であるのです。また、他の大学との差別化を計る場面においても、社会人を送り出す立場においても、サービス事業としての感性と資質が求められるのです。

第二には、「教職員一人ひとりに、コスト意識が不可欠である」ということであります。学校法人は、利益追求の法人ではありませんが、健全な大学運営を推進するためには、適正な運用のためのコスト意識のもとに職務を推進することが重要であります。

研究室や職場が個々に自由で個別に活動することは重要なことでありますが、個の採算が成り立って初めて全体の採算が成り立させるものであり、そのためのコスト意識と運用は不可欠であります。そして、何のために何を支出し、それがどのように顧

客たる学生に還元されたかの追求が必要であります。さらに、その前提条件には、情報の開示が必須であり、決済基準の明確化が求められます。組織構成員全員の協力と全員が納得いく運用が求められるのです。

そして最後には、「教職員一人ひとりの役割分担と責任所在を明確にすること」であります。組織体として、その機能を強力に発揮するためには、その適正と能力に応じた役割分担が必要であります。そして潜在的かつ顕在的資質の発達のためには、的確な研修が不可欠です。均等な内容の役割分担制から、個人の適正に従い役割責任と、職務遂行の評価をおこない、さらには公けとし、成果主義へ転換を試みるべきであります。

大学教職員には、顧客である学生が、社会人としてヴォケイショナルな満足感を十分に得られるように支援することができると素地が必要であります。

従って、教職員という人材の採用においても十分に周知を得たものでなければならず、さらには年功序列の廃止は、改革の重要な概念であります。

これらは、一般社会では当然なことですが、冒頭に述べたように、大学の体質が改革

推進に不向きな要素を多く抱えており、さらに大学が消滅するような事態を未だかつて経験したことがなかったために、あらためて確認しなければならぬのです。

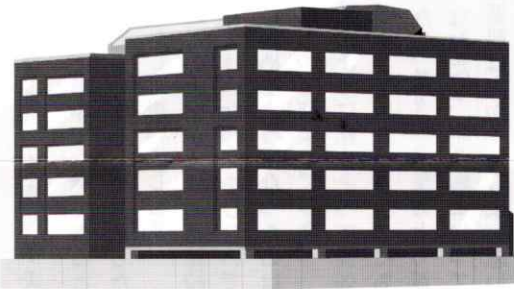
ところで、同窓生の皆さんは、それぞれの場でご活躍でございます。第二の人生の設計図を具体化させ集大成へ向かわれている方も多いことでしょう。かつてこの会報でも述べさせていただきましたが、この困難で大変革の時にこそ後輩のため英知大学の発展のためお力を発揮されてはいかがでしょうか。

ピーター・F・ドラッカーがその著書『プロフェッショナルの条件』の「自己実現の挑戦」の中で「第二の人生をどうするかについて述べていることも、かつての会報で述べました。第一には文字どおり第二の人生をもつこと、新しいことに挑戦することであり、第二には二つ目の仕事(パラレル・キャリア)を持つことである」と。ボランティアとかNPOで働くなどの本業以外にもう一つ別の世界を持つことが大切であります。

自己実現は企業で毎日あくせく働く中ではなかなか難しいことかも知れません。このことをドラッカーは示唆し、ある日突

然踏み切るのではなく、事前に助走期間を経て設計図を具体化させるべきであると述べています。

同窓会役員の皆さんは、厳しく困難な社会情勢の中、ご自分のことだけでも大変な時に、本当にボランティア精神を発揮し努力されていることに感服いたします。今後は、改革を進める大学にとって、ますます多くの同窓生の協力が必要となります。多くの力を結集し英知大学のために発揮されることを期待して止みません。



「学内・企業研究会」を、開催致しました。

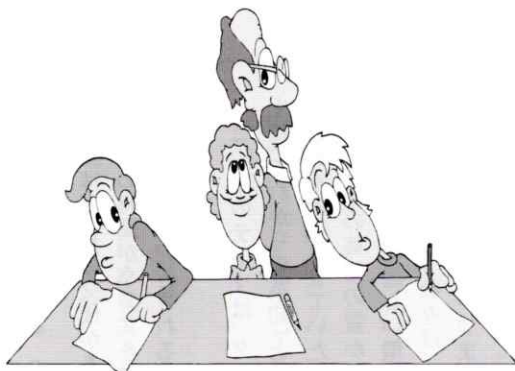
就職部主催・同窓会後援

日時 14年2月9日 会場 学生会館 1F・2F
PM:2.00~5.00

学 長	岸 英司 教授
学長補佐	井勢 健三 教授
英語英文学科長	井田 規文 教授
仏語仏文学科	ジャック・ジョリ教授
国際文化学科	羅 東耀 助教授
同窓会会長	野村 裕 <small>大丸興業株式会社 大阪金属部副部長</small>

参加企業一覧	業 種
アビバグループ	教育サービス業
大阪府警察本部	地方公務員
(株)大阪めいらく	食品製造販売業
オージー・ロイヤル(株)	外食産業
(株)キャッツ	環境衛生サービス業
キリンホテル開発(株)	ホテル業
ホテル「ホップイン」アミング	
(株)クラブツーリズム	観光旅行業
近畿日本ツーリストグループ	
住友生命保険相互会社	生命保険業
総合警備保障(株)	警備警護サービス業
大福信用金庫	金融業
大丸興業(株)	総合商社卸業
大和工商リース(株)	総合リース業
日本エスリード(株)	不動産業
NOVAグループ	教育サービス業
(株)引越社関西	引越しサービス業
兵庫日産モーター(株)	自動車販売
(株)三城	眼鏡製造販売
(株)レリアン	アパレル
レンタルのニッケン	レンタル業
ユー・エス・ジェイ	テーマパーク業

(敬称略)以上、20社様のご協力を頂きました。



これからの英知に期待する事

78 仏文卒 関東支部 永森 孝夫

デフレスパイラルの真只中で財布の紐をしっかりと締めたまま、買いたいものもしばらくは我慢している、という状況ではないでしょうか。

一方では四月から始まるペイオフのため、本来なら動かさなくてもよい預金を利息が悪くなるのにもかかわらず大きな銀行へ預け替えを考慮しておられるのでしょうか。今迄は国がやってくれる事をそのまま受け入れていれば恙無く暮らせたのに今は八方塞になっていて不満ばかり感じていませんか？

二十一世紀の日本は「当てがい扶持」を待つのではなく、自分で考え自分の責任でそれを実行する。この発想が育てば自ずと日本の問題点が見えてくるので、日本の民主主義が定着するチャンスをお待ちしています。

さて岸学長、私が在籍していた時期も含め長きに渡り大学のためにご尽力され本当にお疲れ様でした。

私事になりますが一九七六年フランスのアンジェに一年間留学した時、通常であれば入学時期の関係で卒業がさらに一年遅れるところをディプロムさえ取

得できれば半年で卒業できると約束をもらい安心して渡仏した事を懐かしく思い出します。

後にこの大学が英知の姉妹校になりよけいな心配をしないで勉学に励めるようになったのは後輩にとつて何よりでした。

上述のように私にとつて英知では希望していたフランスにもいけたし、数々の先生方とも親しくなれたし、また何といつても授業料は安かったしよい思い出の方が多くですね。

これからの英知に対する希望は卒業した時に私のように満足感が不満を上回る教育をするのと同時にホームページや大学案内等で受験生にその事をはっきりと表現すべきだと思います。

今は新しい分野を開拓するのではなく、手持ちの得意分野を深耕し今よりも更に大学が小さくなつたとしてもこれだけは英知をおいて他にない。というものを創つて下さい。時間はかかるでしょうがこれをする事によって同窓会も活発になつて行くものと確信するものです。同窓会はいつても大学の発展を期待すると共に、いつでも協力できる準備をしております。

準備をしております。

「TOEIC講座・TOEIC TESTを学内で受けてみませんか」

問合せ先

国際言語教育
センターまで
TEL 06-6491-8599
FAX 06-6491-5433



「学内 TOEIC 講座」

- 第12回 TOEIC スコアアップ講座 (15,000円/1人)
5月27日～6月20日 (月曜・木曜の週2回14:40~16:40)
- 夏 期 TOEIC インテンシブ講座 (14,000円/1人)
7月29日～8月2日 (5日間10:00~13:00)
- 第13回 TOEIC スコアアップ講座 (15,000円/1人)
11月11日～12月5日 (月曜・木曜の週2回14:40~16:40)

「TOEIC TEST」(4,500円/1人)

- 第21回 TOEIC TEST 4月27日 (土)
- 第22回 TOEIC TEST 6月22日 (土)
- 第23回 TOEIC TEST 8月3日 (土)
- 第24回 TOEIC TEST 12月7日 (土)

在學生もOB・OG
も英語力を
ブラッシュアップ!

編集後記

今回は、学長の交代があり、その交代の時期が卒業式をはさんだこの会報が発行される時と重なりました。

この号のテーマは、タイムリリーに『これからの英知』と言う事で原稿を依頼させていただきました。現代の英知の置かれていた立場は非常に厳しい環境にあると思われまふ。我々は、自分達の巣立つた母校がいつまでも健全経営で、大きく育つてゆく事を望んでいます。

新しい体制のもとで、同窓会も含めて、どんな大学にしたいのか？どんな大学が求められているのかを考えてゆかねばと思えます。

どうぞ、いつまでも無関心でなく、ひとりの力は、小さいものかも知れませんが、かたまりとなれば、大きな力を発揮するものです。

どんな参加の仕方でも結構です力を貸して下さい。!

副会長 藤本 滝三 73 西文科卒

お詫び 国際文化科学科科長の松本教授とは、連絡が取れず原稿を回収する事が出来ませんでしたので次号にて掲載させていただきます。